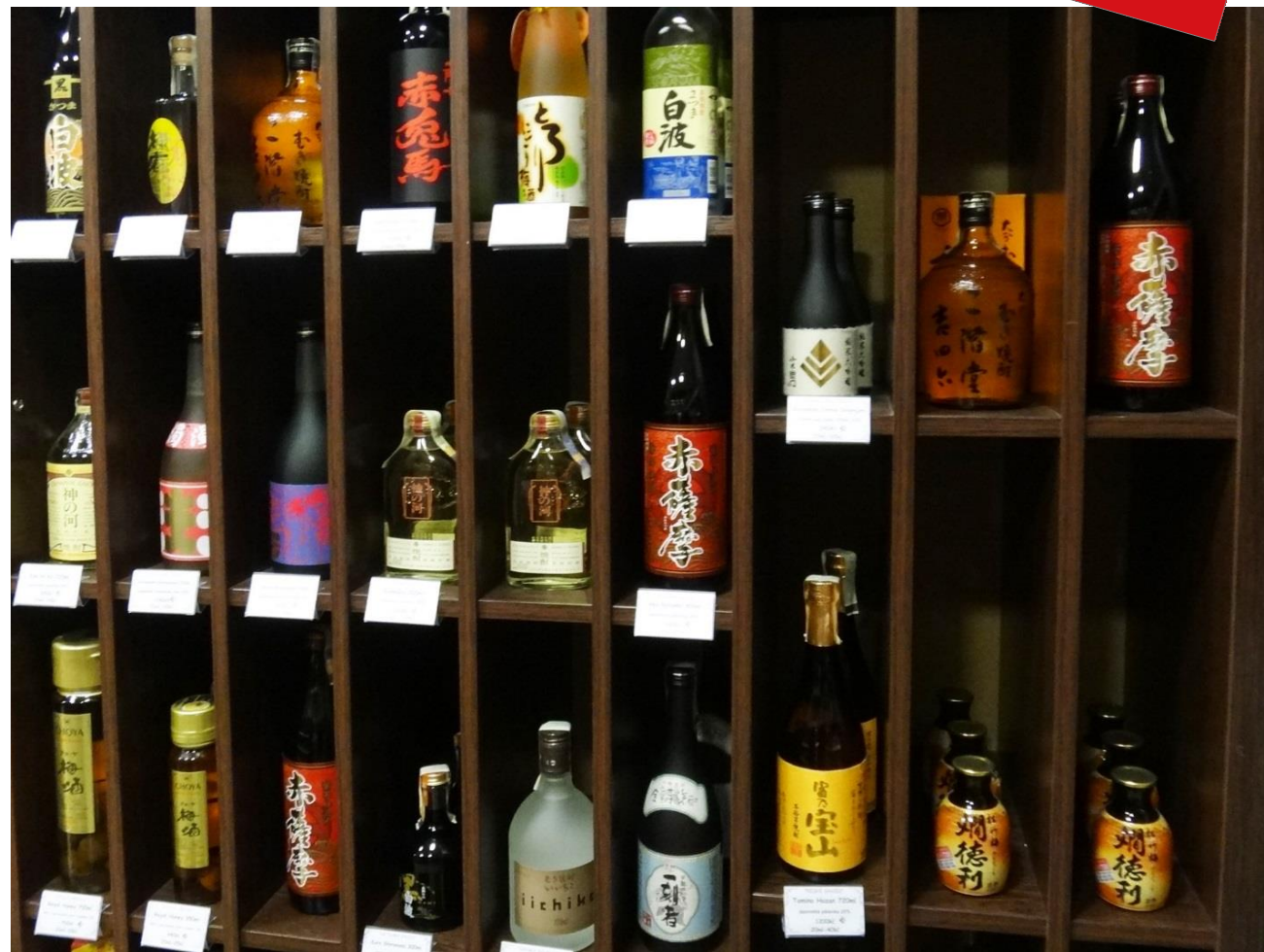
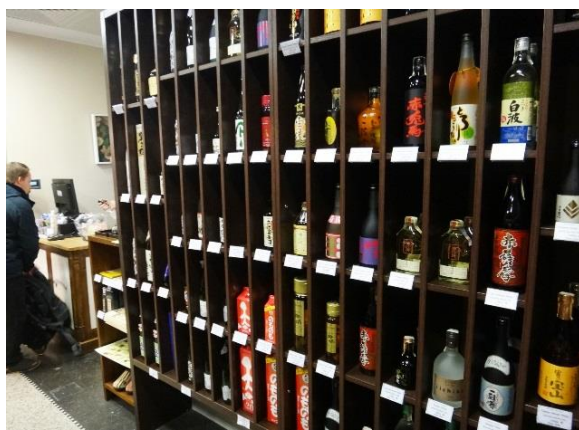
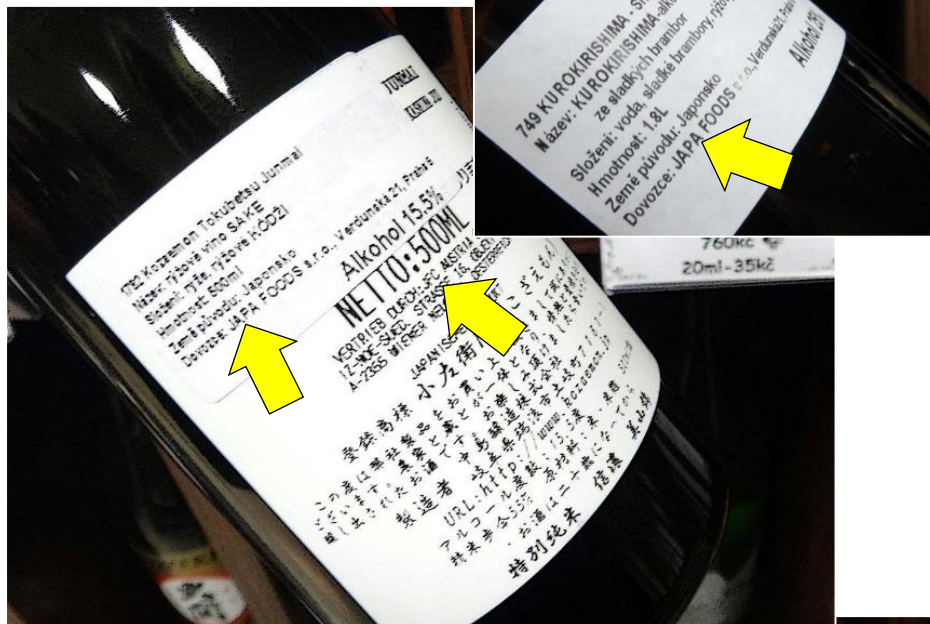




- プラハの中心市街地のビルの中にある日本食品の店「Japa」。欧米で日本酒類を販売するお店では「清酒が主、焼酎は僅か」なのが一般的だが、このお店はご覧の通り、焼酎比率がとても高い。清酒は、カリフォルニア清酒も置く店も多いが、この店は日本製(日本酒)だけだった。
- 店のオーナーは、左下写真の本(日本料理の本)の中央の人物、著者でトミオ・オカムラ(岡村富夫)さん。東京生まれの日系人で、実業家、著作家、チェコの上院議員。大統領選挙に出馬したこともあるチェコでは有名な人。オカムラさんが、焼酎好きなのかもしれない。
- 食品の品揃えはそれほど多くはなく、酒類販売に重点を置いているよう。なお、日本語のわかる店員さんはいない。

<裏ラベル観察編>

- 「黒霧島」「小左衛門(岐阜・中嶋醸造)」「吉乃川」の裏のタックラベルは、すべて「輸入業者: JAPA FOODS」の表示。
- ただ、「小左衛門」をよく見ると、「JFC AUSTLIA」の上に貼ってある。「吉乃川」は同じラベルを上下2枚貼ってあるが、他の輸入業者ラベルをカバーするため？



<商品観察編>

- 「japonica」は、奈良の油長酒造さんの輸出専用商品で、アルコール33%のスピリッツ。稲の穂が入っているが、どのびんを見ても不思議に米は一粒も穂から離れていない。(当社の壺をご採用いただいている商品。ご愛顧ありがとうございます♪)



- 「アサヒのスーパードライ500ml 缶」には「product of Czech」と印刷してある。店から1kmくらいの至近距離にあるチェコ2位の大手ビール会社、スタロプラメン社が受託製造。今思えば1缶買って出来立ての味を試すべしだったが、失念していました。



<価格観察編> CZK=チェコ・コロンナ=約5円。20mlの有料試飲もあるのでその価格も記録。

- (下・棚の商品) ■「黒霧島1.8L」:1,185CZK、20mlは25CZK ■「サントリー・オールド」:1,250CZK、20mlは40CZK ■「八海山1.8L」: 3,660CZK、20mlは45CZK ■「奥の末・十八代伊兵衛720ml」: 3,680CZK ■「奈良萬・純米大吟醸(夢心)720ml」:2,850CZK、20mlは85CZK ■「大関・辛丹波720ml」:690CZK、20mlは25CZK
- (右・冷蔵庫の商品) ■「上善如水」:20mlで40CZK ■「松竹梅上撰」:20mlで15CZK ■「裏・雅山流(山形・新藤酒造店)720ml」:1,325CZK、20mlは40CZK ■「奈良萬・純米720ml」:1,350CZK、20mlは40CZK ■「六船(秋田清酒)720ml」:1,700CZK、20mlは55CZK



<レストラン観察編>

- 今回は日本レストランに入る時間がなかったので、プラハ中心部ストリート・ビューで観察。
- 「金城」という和装花嫁が寿司を持っている看板の店は「中華系ジャパニーズ」、「スシ・タイム」という店は「ベトナム系ジャパニーズ」、「Yammy」という店はカレーもラーメンも寿司もある「フュージョン系ジャパニーズ」。

